

山梨県甲府市立 大国小学校



学び方と確かな学力の育成に向けて

大国小学校では、「心豊かに 知性を磨き たくましく主体的に行動する子どもの育成」を教育目標に掲げています。重点目標の一つに「確かな学力の育成」を設定し、家庭学習やプログラミング教育、ICT活用を推進しています。今回はラインズeライブラリをカラーテスト前の確認に活用している実践をご紹介します。

確認テストで理解度をチェック



▲学習メモで計算過程を残す

算数 5年：四角形と三角形の面積

この日は「四角形と三角形の面積」のまとめとして、カラーテスト前にラインズeライブラリの確認テストを活用しました。

クラス全体で平行四辺形・三角形・台形の面積の公式を声に出して確認した後、出題された確認テストに取りかかります。児童は、真剣な表情で黙々と問題を解き進めます。少し複雑な計算では、学習メモに計算過程を書き残していました。採点後は、間違えた問題を見直す姿も見られました。

自動個別課題でつまずきを見直し



▲テスト終了後、次のテストに向けて学習

ほとんどの児童が確認テストを終える頃、岡里先生は自動個別課題を出題しました。カラーテスト前の最終確認として、児童は自分の理解度に応じて出された課題に取り組みます。岡里先生は、児童の取り組みを先生画面で確認しながら、「今日はみんなの点数が高かったから、少し難しい問題が出ているね」「丁寧に計算できています」と声をかけていました。

一人で解き進める児童や、友だちと教え合いながら理解を深める児童など、自由に学ぶ姿が見られました。

授業の流れ



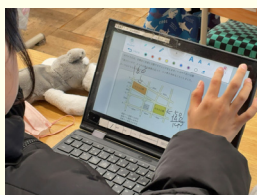
公式の確認

声に出して公式を確認



確認テストの実施

5～10分ほどで解答



自動個別課題

思考力育成問題にも挑戦



テスト前の最終確認

底辺の取り方を最終確認



カラーテストの実施

学習の成果を発揮

■ テストに向けて主体的に学習を進める



▲必要に応じて個別指導

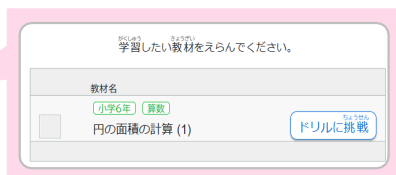
ラインズeライブラリの確認テストを実施することで、**児童自身がどの部分を復習すべきか、どれだけ理解できているかを視覚的に確認できるようになります**。また、「確認テスト復習」を活用することで、苦手な箇所を効率よくピンポイントで復習することが可能になります。岡里先生は「児童自身がカラーテストに向けて主体的に考えながら学習を進められるようになっていないか」と話します。



自由学習トップ画面



確認テスト復習



確認テストの結果から、学習内容ごとに理解度を確認でき、ナビゲーションされる教材から復習もできます。

インタビュー カラーテスト前に、プレテストと確認テストで振り返り



5年1組担任
岡里 真実 先生

ラインズeライブラリの確認テストは、テストを実施する日の授業時間や朝学習の20分間を活用して行うことが多いです。また、テスト前日は必ず紙のプレテストを宿題にしています。プレテストと確認テストの結果を見て、理解が不十分だと思われる児童には個別に声をかけています。**解答時間を十分に取っているにもかかわらず得点が十分でない児童については、特に気を配るようにしています**。タブレットで解くことは、プリントと違う感覚で取り組めるのも良い点だと感じています。

ICT×家庭学習で主体的な学び方を身につける

今年度のスクールプランの一環として家庭学習（自主学習）の推進を掲げ、さまざまな取り組みを進めています。その一つに、「クラスルーム」を活用した自学ノートの共有があります。他の児童のノートを参考にすることで、まとめ方を工夫したり、課題の取り組み方を学んだりすることにつながります。日常では気づきにくい自主学習の進め方を共有することが、学びを深めるきっかけになることを狙っています。

また、確かな学力の育成を目指し、授業でのICT活用や自己調整力の向上にも重点を置いています。今回、児童たちが確認テストに挑戦し、カラーテストに向けてテンポよく学習する姿を見て、これらの力が少しずつ身についてきているのではないかと感じました。**これからは、基礎学力の定着だけでなく、児童一人一人の興味や関心を広げるような学び方ができるよう、指導方法をさらに工夫していきたいと思っています**。



校長
青木 央 先生

※本紙の情報は取材当時（2025年度）のものです。